

(様式3)

自己評価結果票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着したサービスと言った表現はしていないが、利用者一人ひとりが安心して生活出来るためのサービス提供を含む事業所の理念はあり、毎年度作成する事業計画にも地域と密着したサービスを提供していく事を記して努力している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念、それを具体化したホームの基本理念について、朝礼・職員会議等の機会を通じて職員全体が共有し理念の実現に向けて取り組んでいる。法人として基本理念・基本方針を冊子として職員に配布している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	施設内に理念を掲示すると共に、家族に対しては、入所時の説明や近況報告にて理解を得ている。又、地域へは機関紙に掲載して理念の浸透に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周辺環境から隣近所との付き合いは困難であるが、散歩や外出行事、買物等で出会う人達とは笑顔で挨拶を交わしている。隣接する法人内の他施設利用者、職員とも言葉を交わし他施設へ訪問し交流などもしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅のまばらな環境にあり、地域、近隣の人たちとの交流機会は少ないが、地域で行われる各種行事(花菖蒲まつり・秋祭り等)に参加し地域の方々との交流に努めている。又、行事の際には、地域で活動されている方を招き演奏していただく等交わりの機会を持っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣にある法人他施設を含めて福祉無料相談所を開設し、施設入所や在宅サービスの提供等について情報提供や相談にのっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでの自己評価及び第三者評価については職員が目を通せる環境にあり、職員会議においても問題点を含めた話し合いを実施、改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営協議会を開催し、地域に根ざしたホームとしての運営についての取り組みやサービス評価等についても報告している。又、行事等にも参加いただき利用者、家族との対話の機会も持っている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	朝来市担当窓口とは常に連携を密にしており、疑問点、質問事項についての解消に取組み、サービス向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、権利擁護や成年後見人制度については冊子にて制度の理解に努めるようにしているが、十分な理解、活用できる支援体制までには至っていない。	○	職員が研修等に参加できる機会を得て、制度の理解と活用につなげるよう努める。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については職員共有の問題と捉え、互いの介護について見つめあいながら注意を払う体制作りを心掛け、事例集等も参考にし振り返りの機会を設け、虐待が見過ごされぬ様防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・権利義務については明示し、入所時点においては利用者・ご家族へ充分時間をかけて理解・納得いただけるよう説明に努めている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・職員との関わり、利用者と家族との関係の中で、利用者から寄せられた運営に関する意見は真摯に受け止め、全職員共有の問題として話し合い、運営に反映させるようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、近況報告としてホーム内での生活状況、病院受診時の報告等を担当職員が記入し、個々の貯金通帳の動き(コピー)とあわせて各ご家族へ送付し報告している。職員異動、法人の動き、地域の催し等も報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や外部からの苦情や意見については苦情相談委員会を設けて対応、第三者委員も交えて検討する体制を設けている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議等、折に触れて職員の意見や提案を聞くようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の健康状態や生活の流れにそって支援を行う為、職員の理解と協力を得て、これに即した職員の勤務ローテーション作りを心掛け取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正規職員については、法人全体の中での人事異動があるが、利用者との馴染みの関係を構築する為に最小限の異動に留めるよう法人へ要望している。又、異動職員に於いては一日も早い関係構築の為、他職員との協力体制で支障のないように努めている。		
5.人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域で開催される研修会等へは積極的に参加し研鑽に励んでいる。施設内においても毎月職員会議の際には職員がテーマを決め事前学習し発表する機会を設けている。又、法人内での研修も勤務年数等に応じて計画的に研修出来るよう配慮している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームを開設された事業者の方の研修、実習の機会を提供したり、同業者が主催された研修等にも参加し交流の機会を持つよう努めている。又、高齢者施設連絡会を通して他施設の職員との交流や研修会等の開催に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者や管理者は常に職員の話に傾聴する姿勢を持ち、職員相互の親睦を図るような機会を催している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	大きく変化している昨今の社会福祉の現状や、地域福祉の動向等の情報を提供する事により、職員一人ひとりが置かれている立場を認識し、資格取得を含めて前向きに取り組めるよう働きかけている。又、職員の学習意欲を評価し常に向上心をもつて取り組めるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には訪問や来所という形で直接本人と面談し話を聞く機会を設けるとともに、常に利用者の方の声に耳を傾け、生活状況、抱えている不安、ホームに対する要望等の把握に努めている。	
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前、入所後また必要に応じご家族との面談を行い、生活状況の説明、現状の不安解消、要望の把握に努めている。	
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを尊重し「今、何が必要か」を見極めることに努め、他サービスの情報提供も含めて支援している。	
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や話し合いの中で、家族や仲間がいることにより、一人ではない事を感じていただくように努め、利用者が自分の生活リズムを大切に過ごしていただけるよう、馴染みの家具や生活用品の持ち込みにより安心して頂けるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○ 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、グループホームの存在意義を理解し、利用者がその人らしく安心して生活出来るような環境作りに取り組み、家事等を共に行う中で互いに助け合う馴染みの関係を構築する様努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者にとって家族の持つ意味は大きく、職員は近況報告等で常にご家族とのコミュニケーションを図りながら利用者の支援について考えている。家族の訪問時には、できるだけ担当職員が意見や要望を聞き取るようにしている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の現状を近況報告にてお知らせし、現況を正確に理解していただくことでより良いサービスを検討する。又、面会、行事への参加を呼びかけ、家族関係が継続されるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人等の面会については何時でも受入れが可能であり、自宅への帰省や馴染みの場所への外出もご家族との協力により積極的に勧めている。	○	「ふるさと訪問」として外出の機会の少ない方に関しては、懐かしい人や場所へ訪問するなどの機会を作り、関係継続ができるような配慮ができればと考えている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、常に見守りの姿勢を持ち、利用者が孤立する事のないように、仲間としてお互いが支えあう関係作りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も継続的な関わりを必要とするケースについては、その後の状況を確認するなど関係を断ち切らないようにしている。又、近隣施設等の場合は面会等も行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を聞き取るように職員は傾聴の姿勢を持ち、傍らに寄添うケアを行い、利用者の意向の把握に努めている。また、困難な場合は本人の過去の動向や家族の意向も聞くようにしている。	
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとり一人の生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等の把握については、ご家族からの聞き取りや自宅訪問、本人の会話の中等から把握するように努めている。	
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活状況、身体状況等葉ケース記録に記録し、全職員が利用者ひとり一人の現状把握した上で介護にあたるように心掛けている。	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴、心身の状況、家族の要望等をアセスメントにより把握し、職員間で十分な意見交換を行い、ご家族の理解を得て介護計画を作成している。	
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化については、常に家族との連絡を密にして連携を図りながら介護計画に反映させている。又、毎月ユニット会議を持ち利用者の変化に速やかに対応できるようにし、必要に応じ介護計画も見直ししている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケース記録に記入し、全職員が必ず目を通し利用者の日々の状況を把握するとともに、申送りノートにてそれぞれの気づきに基づいた介護方法について記入し、実践できるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日のスケジュールは基本的には自由であり、利用者の健康状況に応じた医療機関受診やご家族の要望される外出、外泊、地域行事への参加等への支援は可能な限り対応している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の各機関とは常に良好な関係を持ち、何かあれば支援いただける体制は出来ているが、ボランティア等の関わりは少ない。	○	各関係機関調査や施設発行機関紙を利用しボランティアを要望等はしているが実現には至っていない。必要に応じ積極的に取り組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内の特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所、デイサービス等と連携を取り、利用者の他サービス活用についての支援をしたり、情報の提供をいただいたりしている。(利用者の重度化に対応した支援)		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では、地域包括支援センターとの協働を要するような事案は無いが、センターとの関係は良好に保たれている。	○	現状では、利用者、家族からの要望はないが、他施設利用も含めて検討する必要が生じた場合、地域包括支援センターを含む機関との連携を図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が望まれる医療機関を利用し、継続的な医療ケアが提供されるようにしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	研修や医療機関への受診の機会を捉えて、専門医との連携を図り、助言、指導が受けやすい環境を作っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人内の各施設の看護師の協力にて、利用者の健康管理や医療相談、治療に支援を得ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時には、職員が面会時に病院のスタッフと面談し情報交換等を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対しての対応は、法人内の特別養護老人ホームとの連携を図り、利用者、家族へサービス変更等の情報を提供している。終末期における対応については、協力医療機関との連携の中で、家族との共通認識を持つように努めている。	○	終末期ケアについては、家族の意向等を聞きながらよりよい終末期に向けた取り組みを検討する。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	大変難しいテーマであり、利用者個々の現状を確実に把握し、早期に医療機関へ受診を行い充実した生活ができるよう支援を行なうが、現状の職員体制ではターミナルケアへの取組みは難しい。	○	医師、看護師との連携、協力が必要であり又職員体制等検討すべき課題であり今後検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、これまでの生活状況、家族状況等の情報を個人情報保護法に則って交換し、継続してより良いケアが出来るようにしている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを侵害するような言葉遣いや対応の厳禁、個人情報の守秘義務遵守等を基本理念として掲げ、職員の意識向上に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、利用者の思いや希望が表出できるよう常に利用者に寄り添い、個々の能力に合わせた方法により問いかけ、利用者を選択の機会、自己決定の機会を提供できるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、日課等で利用者個々の行動を制限する事はない。日常生活の中で一人ひとりの生活習慣や行動パターンを把握し、利用者の自由意志に基づいた暮らしを優先させている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近隣に来園される理髪店を利用したり、訪問美容を利用し、利用者の希望するスタイルにカットしていただいている。衣類については、季節や清潔感、利用者の好み等に配慮し、利用者、職員とで選択している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れ、食材の買い物、調理の一部や後片付け等を職員とともに行っている。食事は職員も一緒に食すことにより楽しい雰囲気作りに配慮している。		
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の希望を献立に取り入れ、食材の買い物等の中で利用者の嗜好に添った支援に努めている。お酒は自由であるが健康面、他者等のかかわり等において制限する事もある。タバコについては防災面、健康面で禁煙としている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、声掛けにより気持ちよく排泄できるよう支援している。また、残存能力が最大限活かされるよう可能な限り見守りを行い、さりげない誘導、介助を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調と希望を聞き、当日の入浴の有無を選択していただき入浴を決定している。入浴が自立している利用者にもプライバシーに配慮しながら様子観察を行い、安全で快適な入浴ができるよう見守りを支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	家事手伝い、散歩等を活用し日中の生活の中にリズムを作り、安眠への支援をしている。又、夜間帯で眠れない利用者へは夜勤者が傍に寄り添い安心して入眠できるようにし、不眠が続く利用者については、個々の体調を把握して医師の指示、助言を受けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所前までの経験や趣味を生かし、園芸、貼り絵、家事やレクリエーション等、生活歴にそった形で一人ひとりの能力が発揮でき自己表できるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	担当職員は利用者個々の金銭管理の力量を把握し、自己管理が可能な方には自分で所持していただき、使用出来るように支援している。自己管理が難しい方については、個々の出納簿を活用して金銭管理を行い、家族との連携の中で使用している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望をあわせて、季節や気候の良い時期にはホーム周辺の散歩、買物、地域の行事への参加等外出の機会を設けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ユニットごとやホームを上げてのドライブや見学会を開催し、外出できる機会を設けている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者への、ご家族からの手紙への返事が出せるよう支援したり、贈り物が届いた時にはお礼の電話や手紙を出される様に促がしている。個人の電話機を部屋に設置されている方もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定していないので何時でも面会できるような体制をとっている。訪問された方にはお茶の接待を行う等、ゆっくり過していただくように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本理念にも、身体拘束及び行動の制限に繋がる行為(言動)は行わないとうたっており、職員各自が身体拘束をしないケアを実践している。ただ夜間のみ、つなぎ服を着用している方がいるが、家族の了解をいただき、毎月確認をとるなど見直しも行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、ベランダの施錠はせず自由な暮らしを支える様にしている。利用者の安全は職員が常に見守りを行なう事で取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜を問わず見守りを実施し状況把握に努めている。夜間は2時間ごとに巡視を行い安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の心身の状況に応じて物品管理し、危険を防ぐように配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員全員が周知徹底するようにしている。また、設備にも配慮し火災予防としてオール電化としている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員全員が周知徹底するようにしている。又、近隣施設の医師や看護師の支援が受けれる様に連携をとるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	数年前の台風による土砂災害を経験し、常に気象情報に留意するなど日常生活において災害に対する意識付けを行なっている。消防署で実施される消防教室に参加したりして消防機器の取扱いについても研修している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族への入所時の説明で、体調変化による医療機関への受診を含めて、想定されるリスクに付いて説明し理解を得ると共に、家族への連絡、相談をする事を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、利用者の日々の体調を把握し、変化がある際には速やかに医療機関の受診をするように対応している。		
74	○服薬支援 - 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、病院受診時に処方された薬について効能や副作用について知識を得るとともに、利用者が正しく服薬できるよう支援している。服薬後の状況の確認も行う。		
75	○便秘の予防と対応 - 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動不足による便秘への対応として、散歩や簡単な体操を取り入れて予防に努めるとともに、排泄チェック表により定期的な声かけを行い自然な排便ができるよう対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時の歯磨き、毎食後の口腔ケアを実施している又、定期的に洗浄剤を使用し清潔保持に心がけている。利用者個々の状態により職員が支援している。	○	認知症の進行に伴い口腔内の清潔が保ちにくいことから、感染予防や肺炎防止のためにも口腔ケアを確実にし、口臭予防などの場合には必要に応じ舌ブラシ等も使用し継続実施していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食後チェック記録し、利用者個々の状況を的確に把握し、栄養状況や水分摂取量についても不足のないように支援している。	○	近隣施設の管理栄養士から献立等について指示をいただく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルを作成し、各感染症についての知識を習得するように心がけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防に関してのマニュアルを作成するとともに、食材の購入にあたっては新鮮な食材の購入に留意する。また、調理用具については定期的に消毒に努めるよう取り決めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入り口が道路の反対側になり、落ち着いた環境の中にある。家庭的な雰囲気を出す工夫として花のプランターを飾り、親しみやすい雰囲気を創出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風の建物は緑に覆われた落ち着いた環境にある。共用部分は利用者、職員が交流しやすい家具や居室の配置にしている。自然な採光を取り入れ高い吹き抜けは開放感がある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食器棚を利用してテーブル、椅子のコーナーとソファの共用スペース等を遮るように配置し、利用者が思い思いに過ごせるように配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、自宅で使用していたなじみの家具や生活用品の持ち込みを勧め、居心地の良い場所となるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員は、常に共有の居住空間の換気や空調に配慮して温度調節をこまめに行い、各居室においては利用者の意見を聞きながら調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーとなっており、利用者の生活スタイルに合わせた行動ができるように配慮されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の方が各自の居室や浴室がわかるように、ポスターや写真等を掲示して工夫している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターによる花の育成や、建物周囲の畑で野菜を栽培したりして日常生活に活かしている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ 大いに増えている ☐ 少しずつ増えている ☐ あまり増えていない ☐ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	☐ ほぼ全ての職員が ☐ 職員の2/3くらいが ☐ 職員の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の2/3くらいが ☐ 利用者の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての家族等が ☐ 家族等の2/3くらいが ☐ 家族等の1/3くらいが ☐ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の心のサポート者である家族、友達、地域の方々が気軽に出入りしていただけるような雰囲気作りに心がけている。日常生活等においては、さまざまな理由で外出ができない方々が、グループホームだけの生活とならぬよう、介護員の支援等により外出し、地域の方々との交流の機会を持ち、明るく楽しみのある生活ができるだけ多く提供していけるよう心がけている。又、年に一度の長距離バス旅行は、昔を思い出させるような楽しいひと時でもあり、心身ともにリラックスし楽しんでいただける様な機会を提供している。医療面では、体調変化や日常生活の状況変化を把握し、協力医療機関の協力を得て悪化する事のないよう早期医療が受けられるように支援しています。